

大会テーマ

ここにあるタカラもの

—建築まちづくりの七転び八起き—



会期：2016年6月10日(金)、11日(土)、12日(日) 開催地：群馬県前橋市、高崎市

成功裏に終わった第1回支部大会は、JIAのタカラものになることを実感

支部大会実行委員長 上浪 寛



2016年6月10日(金)～12日(日)の3日間、第1回支部大会を群馬で無事開催することができ、内外から好評価を得ることができました。多くの会員からの参加や支援協力のたまものです。この場を借りて会員の皆様に感謝申し上げます。またこの大会の成功は群馬地域会をはじめ支部23地域会のご支援によるところが大きく、地域会で活動されている会員の皆様には特に深く感謝申し上げます。

期間中は会員、非会員合わせて延べ1,000人以上の参加者を迎えることができ、特に最終日の群馬音楽センターでは700名前後の参加者となり大変盛況な大会となりました。大会の3ヵ月前からは「空き家空き地コンペ」「建築家カタログ」といった一般公募を行いました。これを進める過程で地域に根付いた専門家が地元自治体、市民、行政と連携し成果を上げた結果、地方都市開催の支部大会として成功したと考えています。

2015年まで保存問題をテーマに、24回にわたり保存大会を開催してきました。地域会の協力を得ながら支部としても

まとまりを持ち、社会と向き合おうとしてきた成果と言えます。保存大会を昇華させた今回の支部大会は、「保存」に加えて「環境」「災害」「まちづくり」「国際」をテーマに、各委員会の連携とその知見を地域で共有すること、そして地域の課題について10都県を通じた広い視野で解決方法を考えることが、開催地域社会並びに地域会の活動に貢献できると考えました。大会終了後、群馬県他地元行政や自治体をはじめ地元市民とは具体的に連携した活動に繋がりがつつあります。

第1回支部大会は群馬地域会の惜しみない活動の成果と言えますが、これは他の地域会にも応用できると考えます。各委員会活動は委員会相互の連携を取り合うことで、JIAらしい活動成果を得られます。多角的な視点からの問題把握・解決を可能とし、必然的に社会的な成果を得られます。支部大会の準備・開催を通して普段の各委員会活動にも反映していければ、これらのコンテンツはJIAのタカラものになると実感した大会でした。

ホスト地域会として、この大会が持つ意味、価値、もたらすもの

群馬地域会 代表 飯井雅裕



1年以上の準備期間をかけた第1回関東甲信越支部大会が無事終了した。開催地である前橋と高崎の2都市の特徴を出しながら、3日間で15のプログラムを実行した。ホスト地域会として「もてなしの心」で参加者を迎えると同時に、地域にとって意義のあるものにするを重要視した。

そのひとつが地域を外から見て評価してもらうこと、つまり地域の「タカラ」と「課題」を提示する中で、今まで地域内では気付かなかった魅力や解決方法を引き出してもらうことである。このことは「メインシンポジウム」や「空き家空き地コンペ」など各プログラムの過程やディスカッションの中で随所に見られた。今後さらに情報交換する中でこの成果が高められると思う。

もう一つの成果として、行政や市民と建築家の関係が深まったことが挙げられる。開催にあたり行政の協力を得ると同時に、パネラーとしても登壇いただき、一緒に考えていく

体制を模索することができた。また地元大学の先生や音楽や映画界などの異なるジャンルで活躍する方々の登壇や協力も、建築家に期待される役割を明らかにする意味で大切な交流となった。さらに多くの市民に会場いただいたことは建築家やJIAの存在のPRに繋がったと感じている。

内藤廣氏の言葉の中にあつた「地域の力」と「地方の風が吹く」時代の到来に期待を寄せ、その実現のために地域の「タカラ」である文化と風土をより深く理解し、大切にしながら地域の建築家としてアイデアを出していくことが必要であると感じた。今回の大会で得た考えや活動をぜひこれからも実践していきたい。

最後に上浪支部長をはじめ、支部大会実行委員会の皆さまとご協力いただいた関係者の皆様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

第1回JIA関東甲信越支部大会「建築祭2016群馬」

プログラム報告

メインプログラム「地域のタカラを世界に繋ぐ／地域文化と建築」

6月12日(日) 13:30～16:50 会場：群馬音楽センター

今こそ、地域文化(地域のタカラもの)を見つめ直し、これからの建築のあり方を探る時であるとして、日本を代表する建築家・内藤廣氏に講演いただいた。そして活躍著しい若手建築家・藤村龍至氏に空き家空き地コンペ講評をいただき、続く鼎談では、地元市民の山田由紀子氏(オペラ歌手)を交えて市民目線で楽しい建築家とのトークも実現した。また、会場は音楽文化の発展と共に歩んできた群馬音楽センターであり、「群馬交響楽団弦楽四重奏団」「東京農業大学第二高等学校吹奏楽部」の演奏を華やかに盛り込んだ。チラシの配布・折り込み、新聞や各種広報誌への掲載、ラジオ出演などのさまざまな広報活動により多くの市民の来場を得られ、良い話が聞けたことや建築家に対する評価をいただくことができたのは、成功と言って良いと捉えている。講演、鼎談、音楽演奏、表彰式、フェロー会員の紹介など盛り沢山だったが、入念な事前打合せ、リハーサルを行いスムーズな進行ができた。

支部大会を多くの市民と共に、群馬音楽センターの空間を十分に活かして締めくくることができた。

(飯井雅裕)

23地域会発表会「ここにあるタカラもの」

6月10日(金) 14:30～18:00 会場：前橋プラザ元気21 にぎわいホール

昨年度の第24回保存問題東京大会14地域会発表会を発展させたもので、関東甲信越支部23地域会のうち18地域会が一堂に会し、各地域会から資料を配布し、発表を行い、会員・市民なども参加して意見を交換した。太平洋側から日本海側まで多様な地域性がある支部、地勢・風土・歴史・経済・文化などでの多様な特性を相互理解する上で、大変有意義なものとなった。100名近い参加のもと、今後地域会同士の連携活動をしていこうとの提案もあり、白熱した議論とともに大いに盛り上がり、予定終了時間を1時間も過ぎて閉会となった。

これからの支部・地域会活動においても、大きな布石となったのではないだろうか。

(安達文宏)

メインシンポジウム1「歴史の中のタカラもの」

6月11日(土) 9:30～12:10 会場：前橋プラザ元気21 にぎわいホール

群馬の「タカラもの」を醸成した歴史・地勢・民俗・産業と、その建築的魅力・価値について、「近代群馬の地域構造」、「群馬の風土と建築」と題し、2人の専門家から解説いただいた。後半は、地元メディアの編集委員と群馬地域会の建築家加わり、「タカラもの」の活用と継承・これからの建築・まちづくりをテーマにディスカッションを行った。

登壇者：丑木幸男、村田敬一 パネルディスカッション：丑木幸男、村田敬一、古澤良文、須田睿一

コーディネーター：加藤誠洋

(長井淳一)

メインシンポジウム2「街づくりの中のタカラもの」

6月11日(土) 14:30～17:30 会場：高崎シティギャラリー コアホール

空き家空き地対策をテーマにしたシンポジウムで、JIAの建築家からは環境、災害、保存、まちづくりの視点で事例紹介を行い、多様な視点の大切さを浮き彫りにした。前橋市と高崎市の現状報告では、さまざまな助成制度を設けていることが説明された。コメンテーターからは、「オーナー自身が空き家空き地に興味を持っていないことが問題である」「縮小社会における建築設計や都市計画の在り方を問い直すべき」などの切り口が紹介された。ディスカッションでは、検討のための助成制度も必要であり、また、良質な建築・美しいまちづくりのための日本版CABEのような仕組みも必要であるなどの意見が交わされた。そして、行政とJIAとの信頼関係、建築家と他専門家とのコラボレーションが大切であると結んだ。(連 健夫)

「群馬音楽センター 展示」

6月12日(日) 10:00～19:00 会場：群馬音楽センター 1、2階ロビー

メインプログラム会場である群馬音楽センターの開放的なホワイエ空間に、北関東甲信越学生課題設計コンクール受賞作品、空き家空き地コンペ応募作品、地域に根ざす建築作品・活動カタログ2016入選作品、協賛企業展示ブース、学生企画パネル展示「ここにある学び」、前橋工科大学学生制作ダンボール椅子展示を実施した。多くの来場者に見ていただき、JIA、建築を存分にアピールすることができた。(神澤宣次)



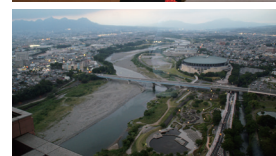
COLONNADE

第1回 JIA 関東甲信越支部大会「建築祭2016群馬」

「富岡製糸場見学バスツアー」

6月10日(金) 9:00～14:00 コース：高崎駅—富岡製糸場—前橋

一般見学コースにもある建築群では、ボランティアガイドの方から建物の特徴や工法、当時の女工さんの様子を交えた解説があり、建物や設備だけではなく労働環境も先進的な模範工場であったことが印象に残った。その後、特別に公開されている西置繭所、東置繭所2階、鉄水溜について、市富岡製糸場保全課の森田係長に解説をいただいた。素屋根が掛かり、瓦の降ろされた西置繭所では、保存修理の様子や課題などについてもうかがった。(永井福二)



「前橋まち歩き／臨江閣見学コース」

6月10日(金) 17:00～18:30 見学地：前橋市街地・臨江閣

前橋中心市街地を散策後、保存改修工事の進む県・市指定重要文化財「臨江閣」別館を見学。全体行程が非常にタイトであり、前橋中心市街地の現状、また全体に仮設覆い屋を掛けての「臨江閣」別館改修工事について十分な説明を行うことは叶わなかったが、概要はご理解いただけたと考えている。移動行程、見学先のノスタルジックさが、初夏の夕刻と相まって懐かしさと切なさを感じる企画であった。(上原和彦)

「高崎まち歩き／高崎市美術館・旧井上房一郎邸」

6月12日(日) 9:30～12:00 見学地：高崎市美術館・旧井上房一郎邸

美術館のご好意で、支部大会参加者は入館料無料、開館時間より30分早く入館可能にいただいた。JIA群馬地域会制作の、「井上房一郎+タウト&レーモンド 年譜」を展示し、必要に応じて美術館の担当者、館長、JIAメンバーによる解説を行った。この年譜は、3人の関係を理解できると好評だった。(水上勝之)

「群馬音楽センター バックステージツアー」

6月12日(日) 10:00～12:00 会場：群馬音楽センター

ギャラリーから始まり、映写室、会議室、楽屋、舞台袖、奈落の順に見学した。滅多に見ることのできないバックステージ見学に参加者は興味津々。オリジナルの家具や照明が当時のまま使われている様子や、当時がイメージできる楽屋の雰囲気にも多くの見学者が感激していた。(松本金弥)

「支部会議」

6月10日(金) 13:00～14:25 会場：前橋プラザ元気21 にぎわいホール

支部5つの委員会(まちづくり(都市・建築)、保存問題、災害対策、国際事業、環境)の最新活動をプレゼンテーションし、会員・参加者へのアピールを行った。つづいて5委員会共同企画の「地域に根ざす建築作品・活動カタログ2016」入選71作品を紹介し、受賞29作品の表彰を行った。(長井淳一)

「フェロー会員会議」

6月10日(金) 13:00～14:30 会場：前橋プラザ元気21 505号室

各フェローから自己紹介と共に、①JIAに入って良かったこと、②これからのJIAについて、話していただいた。①として、「仲間ができた。多くの先輩と話ができた。地域との繋がりができた」などが挙げられ、②では、「厳しい現状認識・理念・仕組みの提案・建築家職能・会員・会員間の協働」などの指摘について、意見交換がされた。(連 健夫)

「開会セレモニーと映画「ここに泉あり」上映会」

6月11日(土) 18:00～21:00 会場：高崎電気館

芦原太郎会長(当時)による乾杯挨拶の後、映画の解説と電気館の紹介を高崎電気館 運営責任者である志尾睦子氏にいただいた。群馬音楽センターの建設に繋がる群馬交響楽団の草創期の映画を見ることで、街を理解し、翌日のメインプログラムへと繋げることができた。上映後、映画に対して拍手が起きたことはありがたかったし、イタリアン軽食とドリンク付きも好評であった。(飯井雅裕)

「ウェルカムパーティー」

6月10日(金) 19:00～20:40 会場：群馬県庁32階展望ホール

支部大会初日の夜、群馬県一の高さの会場でのパーティーに88名の参加があった。夕暮れどきの上州の山々や関東平野の景色を眺めながら、支部大会ロゴ作成者の表彰、フェロー会員の紹介も行い、前橋の夜を地産食材や名産と共に楽しんだ。一般貸出をしないホールを県にご協力いただき、また備品、飲食は群馬地域会員の皆さんに尽力いただいて、華やかなおもてなしの場を設けることができた。(曾田 彰)

第1回JIA関東甲信越支部大会「建築祭2016群馬」

地域に根ざす建築作品・活動 カタログ 2016

<http://www.jia-kanto.org/shibu-taikai/2016/catalog/index.html>

関東甲信越支部9県1都の設計者や活動グループにスポットライトをあて、支部地域内の建築作品や地域活動を紹介する最新情報カタログ企画。「持続可能な建築や社会への提案」を共通テーマとし、「まちづくり(都市+建築)」「保存問題」「災害対策」「国際事業」「環境」の5委員会が共同でプログラム作りをした。

応募代表者がA3判の定形書式上に自らの設計や活動を

紹介。掲載された78点の内訳は、入選71点、参考作品2点、委員会活動報告5点。詳細は当該HP内の「企画から展示・HP公開までの流れとまとめ」に記されている。

受賞作品については審査委員講評も掲載されており、大会に参加できなかった会員にも各自でアクセスして見てもらうことができる点、一過性に終わらない行事として意義の感じられる内容となった。(環境委員会委員長 寺尾信子)

●入賞作品

建築作品部門

■根羽村高齢者福祉施設
ねばねの里「なごみ」～「根羽杉」で環境立村を目指して～
(松下重雄)
大会特別賞



■千葉県流山市
秋元邸・秋元酒店
(高階澄人)
地域特別賞



■埼玉県本庄市
本庄・宮本 蔵の街
(戸谷正夫)
地域特別賞
まちづくり委員会賞



■マチの記憶の継承
江ノ電プラットホームの記憶を
思い起こさせるガーデンカフェ
(中山信二)
地域特別賞



■山梨大学 赤レンガ館
(長田孝三)
地域特別賞



■荻窪家族レジデンス
「地域開放型シェアハウスの
多世代賃貸住宅」
(連 健夫)
大会奨励賞



■千葉県・市原市
140年に渡り住み継がれる家
変えたもの／変えないもの／
復活させたもの
(郡山貞子)
大会奨励賞



■櫻介護村計画 1棟目
無確認建築物のコンバージョン
(吉田 晃)
大会奨励賞



■「エアコン」ではなく「ラ
ディコン」身近な技術を用
いて理想の放射環境を創る
東京都E邸
(寺尾信子)
大会奨励賞



■もりのいえ
—Shelltering Earth—
(遠野未来)
大会奨励賞



■山梨県早川町
早川町役場新庁舎
(長井隆志)
大会奨励賞



■埼玉県越谷市
ことのは越ヶ谷～蔵のある
街づくりプロジェクト～
(広川 昇)
保存問題委員会賞



■東京都豊島区 立教大学
本館(1号館)／モリス館
(古賀 大)
保存問題委員会賞



■長野県下伊那郡中川村
南駒ヶ岳を望む家(田舎に住
む。愛知県知立市よりの移住)
(新井 優)
環境委員会賞



活動部門

■新潟まち遺産の会
(大倉 宏)
大会特別賞



■浦安日漁村の住文化の継承
(田中大朗)
地域特別賞
災害対策委員会賞



■ふじさわこどもまちづく
り会議
(三原栄一)
地域特別賞
まちづくり委員会賞



■吉田村プロジェクト
(永峰麻衣子)
地域特別賞



■(特活) 景観建築研究機構
景観・歴史的建造物の保存
整備と活用
(羽鳥 悟)
地域特別賞



■地方都市の記憶の継承
—建築物が紡ぐ歴史と文
化—
(平澤宙之)
地域特別賞



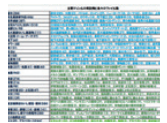
■ぐんま木塾
100年杉プロジェクト
(長井淳一)
地域特別賞



■JIA杉並 土曜学校
(林 美樹)
大会奨励賞



■建築・災害などのテレビ
番組のデジタル保存・デー
タベース化
(河西良幸)
災害対策委員会賞



■「高崎マーチングフェス
ティバル」一街のあらゆる
空間を音楽ステージに—
(飯井雅裕)
国際事業委員会賞



■地域資源発見活動として
の群馬連続建築ツアー
(白井敬太郎)
国際事業委員会賞



■土に学べ 版築シェ
ルターの制作 前橋工科大学
建築学科 建築設計ワー
クショップの試み since 2012
(石川恒夫)
環境委員会賞



第1回 JIA 関東甲信越支部大会「建築祭2016群馬」

空き家空き地コンペ

「物件オーナーや住民の皆さんが、本気になるような提案募集」

コンペ概要

このコンペは、前橋市の中心街に接するエリアにおいて、空き家、空き地をターゲットにエリア全体のバリューアップをする提案コンペです。現在、空き家、空き地対策はどこの自治体でも大きな課題となっており、また事業性を含む、実施に繋がる可能性、設計条件は常に付加されWEBで入手する、という今までにないチャレンジングな内容を持ち、3月と4月の2回の説明会では合計140人を超える参加者となりました。

難しい内容であるにもかかわらず32の応募がありました。5月15日の公開一次審査会では判断基準を含め審査員の中で議論になり、結果9の案が選ばれました。支部大会の3日目、

エリアに位置する前橋市本町二丁目公民館でのプレゼンテーションと公開最終審査会は行政や地元地権者も注視する中で行われ、9案はいずれも質が高く審査は伯仲するも公正に受賞案が選定されました。群馬音楽センターで授賞式、藤村龍至審査員長の講評が行われました。このコンペは大会テーマ「ここにあるタカラもの」の趣旨を反映させたコンペであり、今後の縮小社会における建築まちづくりの在り方を示唆しています。これらの案は今後の実施の可能性をさぐるべく審査メンバーやJIA群馬地域会が動き出しています。

(学術部会長 連 健夫)

●コンペが引き寄せたもの

このコンペは次の3点が特徴的であった。エリアを対象としたこと、住宅や商店・オフィス等さまざま混在していること、地域の拠り所の神社があることである。人は祭礼に集まり、市が立ち、経済・流通が発展し町となる。コンペにも多くの若者が熱気を持って集まった。行政は提案への期待、大

学は共有する課題、住民はそれぞれの興味でコンペは迎えられた。これからは地域の専門家としての真価が問われる。一歩ずつ誠実に向き合うことが大切だ。

(学術部会・空き家空き地コンペWG群馬主査 長井淳一)

●空き家空き地コンペ 審査までのスケジュール

3月初旬	募集開始	
3月27日(日)	第1回現地説明会	前橋市本町二丁目公民館にて 参加者：69名
4月24日(日)	第2回現地説明会	前橋市本町二丁目公民館にて 参加者：61名
4月30日(土)	登録締切	
5月12日(木)	応募締切	
5月15日(日)	公開一次審査	応募32案の中から9案を選出 会場：JIA館1階 建築家クラブ
6月12日(日)	公開二次審査	9案のプレゼンテーションと最終審査会 会場：前橋市本町二丁目公民館
同日	表彰式	授賞式と審査員長の講評 会場：群馬音楽センター・高崎

●審査員 藤村龍至(審査員長)、上浪寛、連健夫、林昭男、小林光義、宮崎晃吉
空き家空き地コンペWG： 連健夫、宮崎晃吉、長井淳一、小林光義、伊藤昭博



公開一次審査の様子



公開二次審査の様子

●「空き家空き地コンペ」の審査を終えて

「コンペだどこまで引き出せるんだな」というのが正直な感想です。3ヵ月という応募期間を設け、期間中に説明会を2回ほど繰り返したことで応募者の提案の深度も、地域の理解も深まりました。応募案の提出時に不足の感じられたポイントも、最終審査では敷地の分析、事業採算シミュレーション、段階的な介入の手順の説明などしっかり補強され、どれも聴き応えがありました。20代の提案は勢いがあり、30代の提案は実務の経験が反映されて新しさと同時に説得力が備わっていました。

最優秀となった3人組は30代。長岡造形大出身の同級生で東京、新潟、群馬で働いており、同級生の結婚式で再会、意

気投合してコンペに取り組んだといいます。緻密な計画と洗練されたプレゼンテーションに加え、「これがやりたい！」というエネルギーがあふれていて素晴らしいものでした。

今回はJIA群馬地域会の皆さんがハブになって行政と地元を繋いで下さいました。JIAや大学など既存の組織を上手く活かすことで地元と馴染みながら専門家のネットワークを活かすことに大きな意味があると感じました。「エリア特化型のストック再生事業」という課題には建築専門家組織の活かしかたのひとつとして大きな可能性があり、教育効果も高いと感じた次第です。

(審査員長 藤村龍至)

第1回JIA関東甲信越支部大会「建築祭2016群馬」

●一次審査を通過した9作品を紹介

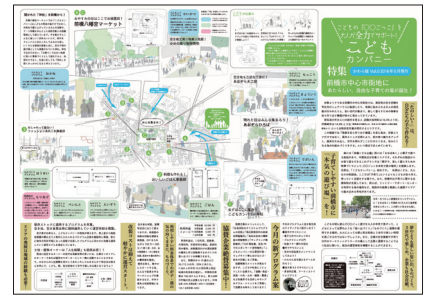
最優秀賞

こどもの「〇〇ごっこ」を全力でサポート！こどもカンパニー

武井奈津美・小畑智之・井村晋作

受賞者のコメント

三角エリアで子どもたちが走り回り、親、その親たちの三世代の笑顔が見える。ご近所のみなさまも、つられて外へ。「こどもカンパニー」がプレゼントしたい、少し先の未来です。こどもの遊びは、こどもだけでなく大人も本気にさせます。そのような姿は、こども達にどう映るのでしょうか。前橋八幡宮でお参りをされる方々、現地説明会で話しされる自治会の方々の姿は、私達を本気にさせました。授賞のきっかけをくださったみなさまに、感謝を申し上げます。そして、改めて、始まりだと感じております。



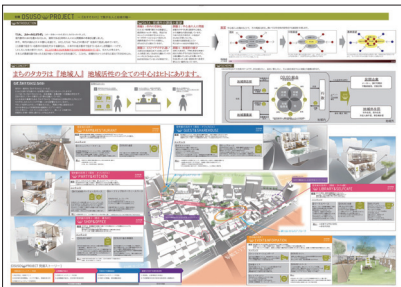
講評●少子化が叫ばれる中このエリアだからこそ可能となるコンセプトをわかりやすく提示し、地域企業の協賛という手法で空き家空き地のストック活用のしくみを提案されている。事業性にも信憑性を持って、子供と大人・地域と企業の関わりを持った具体的なコンテンツにも魅力を感じられたことが高く評価された。

優秀賞

前橋 OSUSO PROJECT

ー『おすそわけ』で繋がる人と地域の輪ー

(株)三越伊勢丹プロパティ・デザイン
伊藤寛人 中道明日香



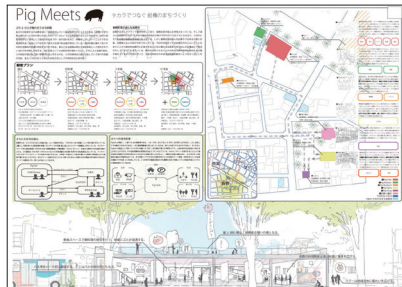
講評●前橋の問題を客観的に抽出し、その解決のカギは『人=タカラ』であるというコンセプトを持ちテーマにあるおすそわけを組合という組織で展開していくという仕組みを整え、段階的に発展させていく過程の中で様々な『人』を軸にしたストック活用につながっていく…そのストーリー性が評価された。

学生賞

Pig Meets

タカラでつなぐ前橋のまちづくり

前橋工科大学建築学科 水谷俊貴

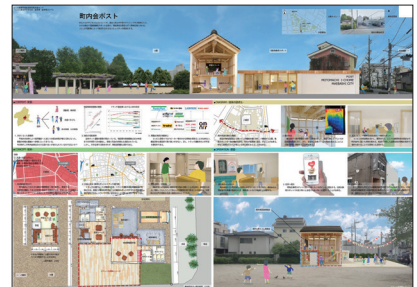


講評●前橋の特色である「豚」を核にしたコンテンツの提案や採算シミュレーションなど事業イメージがわかりやすかった。特に関連企業にこの事業のヒヤリングを行い中長期にわたる事業計画とストック活用展開を時系で整え提案した点は高く評価された。学生にとつととてもいい経験になったことと思われる。

地域会奨励賞

町内会ポスト

千葉大学 幕田早紀



講評●都市構造と家族体系・町内会の今と未来、そこに高度にシステム化された宅配の一部機能を担うという要素を加えた『町内会ポスト』というストック活用提案になっている。日常の中にスッと溶け込むかのような状況がイメージできるしくみとコンテンツが詳細な事業計画の裏付けの上に成り立っていた点が高く評価された。

佳作(5作品)

パラレルキャリアで支え合いのまち ホンマチスクールがつくる、支え合いの経済圏／(株)ハル建築研究所 堀田浩平

三角州プロジェクト／(株)石井設計 代表者：藤原芳博 メンバー：竹内躍人、木暮勇斗、片貝功基、吉田祐介、斎藤翔

タカラノミカタ／(株)MON architects 水間寿明

次世代へつなぐ町の復興計画／秋山照夫建築設計事務所 秋山照夫

市庭(いちば)を拓く／日本大学短期大学部 建築・生活デザイン学科 高田康史

支部大会実行委員会：上浪寛(実行委員長)、慶野正司(副委員長)、藤沼傑(副委員長)、高階澄人、津下庄一

学術部会：連健夫(部会長)、安達文宏、寺尾信子、長井淳一、中山信二

運営部会：飯井雅裕(部会長)、曾田彰、鳥嶋古浩、藤沼傑

財務部会：左知子(部会長)、慶野正司、渡邊顕彦

広報部会：鈴木利美(部会長)、高橋隆博、立石博巳

群馬地域会：相場昭伸、飯井雅裕(2016代表)、家住美路、石川純男、石川恒夫、伊藤昭博、上原和彦、岡田敦志、荻原正人、片山康浩、上村千秋、唐澤勉、神澤宣次、久保田和人、小林光義、齋藤慎佳、莊司由利恵、須田睿一、曾田彰(2015代表)、長井淳一、永井福二、萩原涉、羽鳥悟、林修司、松村和雄、松本金弥、丸橋森雄、水上勝之、山内彰、横堀将之、米田雅夫